

### 宮守地域の農業振興の拠点へ JA宮守支店が待望の開所

JAいわて花巻宮守支店の開所式は12月10日、旧宮守総合センター跡地で開催された。出席したJA職員や市関係者、地域住民ら45人は移転新築した支店の、新たな船出を祝いました。

1階は同支店で、2階は宮守町の農業振興の拠点として活用されます。2階部分の整備にかかる経費の2分の1(上限2500万円)は市が補助します。本田敏秋市長は「遠野の活性化には一次産業の振興が必要。この施設を拠点にJAと住民が協力し、市農業振興に大きく貢献してほしい」と、花巻農業協同組合長の高橋専太郎氏は「宮守地域の農業の拠点で、待望の完成。」



同支店前でテープカットし、新たな船出を祝う関係者

宮守地域の皆さまと協力し、地域活性化につなげたい」とそれぞれ願いを込めました。

### 連携強化で防災力向上へ一丸 自主防災組織が連絡会設立



自主防災組織間の連携を約束し握手を交わす自主防災代表者ら

自主防災組織同士の連携を高め災害時に備える「遠野市自主防災組織連絡会」の設立会議は11月24日、市総合防災センターで開催されました。出席した市内60団体の自主防災組織のリーダーは、災害に備えた防災体制の充実強化を誓い合いました。

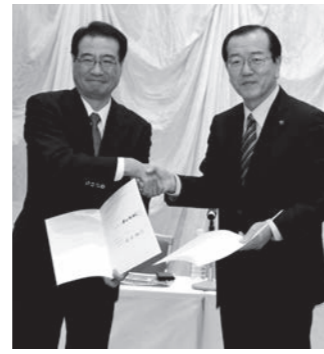
連携を強化する▽代表は各自自主防災組織代表者及び市婦人消防協力隊長とする▽事務局は市消防本部に置く▽ことなどを決定しました。初代会長となった吉田文一(ぶいいち)松崎町第6区自治会長は「自主防同士が互いに活動を高め合えるよう努める」と決意を述べました。同会は今後、研修会や代表者会議を定期的の実施し、防災力の向上に努めます。

### 萩原印刷が市内に事業所開設 名曲『遠野物語』が結んだ絆

書籍印刷を手掛ける萩原印刷株式会社(萩原誠社長、本社東京都)と本市との事業所立地協定調印式は12月23日、あえりあ遠野で行われました。萩原社長は大学時代、シンガーソングライターとして現在も活躍中のおんべ光俊さんとフオークグループ「飛行船」を結成。名曲『遠野物語』を生んだ縁や、同市に事業所を置く(株)びーぶるの山崎浩幸社長との偶然の出会いで、企業誘

致に取り組む本市を紹介されたことから、事業所の立地に踏み切りました。本田市長は「偶然の巡り合わせに感謝しています。飛行船時代のパワーを遠野でも生かしていただきたい」と感謝し、萩原社長は「遠野のように歴史や伝統が息づくまちに事業所を構えたいと思っています。夢や希望を発信できるようにお力添えを」と意気込みを述べました。

事業所は中央通りの旧物産館2階で、今年4月1日の操業開始に向け、現在改築工事が進められています。従業員は5人ほど採用し、書籍のレイアウトや編集などの業務を行います。



固い握手を交わす萩原社長(左)と本田市長

### 復興や地域活性化担う道路へ 綾織の二郷山トンネル貫通

工事が進められている東北横断自動車道宮守―遠野間(9.6キロ)の二郷山トンネル(311メートル)の貫通式は12月19日、綾織町の同所で開催されました。工事関係者や地域住民ら80人は、同区間開通への大きな一歩を祝いました。式典は貫通発破のほか、通り初めや鏡開き、綾織保育園の園児による祝いの舞で貫通を祝福。岩手河川国道事務所

の高橋公浩(こうこう)所長は「トンネルの貫通は復興へ向け大きな励みになる。被災地支援のため1日も早く完成させたい」と決意し、本田市長は「道路の完成は被災地支援や地域活性化にとって重要。早期の完成を願う」と期待しました。同トンネルの総事業費は9億877万円。現在工事は半分近くまで進み、2015年度の開通を目指しています。

### 2人の地域活動専門員 が新たに着任しました



佐々木恵理子さん(43歳) 菊池陵太さん(23歳)

12月14日、地域活動専門員として佐々木恵理子さん(附馬牛地区センター配属)、菊池陵太さん(綾織地区センター配属)が新たに着任しました。2人は地域の皆さんの声を聞きながら、さまざまな活動を通じて、地域活性化や地域の課題解決に向けて取り組みます。

### 新たに10件の地域の宝が 遠野遺産に認定されました

平成19年度に始めた「遠野遺産認定制度」で、新たに10件が遠野遺産に加わり、認定数は通算124件となりました。今回で7回目の認定となった本年度は10件が推薦され、遠野遺産認定調査委員会(杉田盛彦委員長)の調査の結果、すべてふさわしいと認められました。認定された遺産は次のとおりです(数字は認定番号)。115\_欠ノ上稲荷神社(遠野地区、有形遺産)、116\_沢田駒形神社と古峯山石碑(青笹地区、有形遺産)、117\_山口さんさ踊り(土淵地区、無形遺産)、118\_飯豊神楽(同)、119\_土淵しし踊り(同)、120\_鱒沢神楽(宮守地区、無形遺産)、121\_喜清院のシダレ桜(青笹地区、自然)、122\_中齊の夫婦カツラ(宮守地区、自然遺産)、123\_上鱒沢の猿ヶ石川沿い桜並木(同)、124\_綾織三社神社(綾織地区、複合遺産)



認定された上鱒沢猿ヶ石川沿いの桜並木

### 道の駅同士の連携で発展誓う 「全国道の駅連絡会」を設立

「道の駅」として登録されている全国996カ所の駅が、連携しながら機能を充実させることを目的とした「全国道の駅連絡会」の設立総会とシンポジウムは12月17日、あえりあ遠野などで開催されました。全国から集結した市町村長や道の駅関係者ら900人は、新たな連携を通じて道の駅の機能を進化させ共に発展することを確認しました。「道の駅」は制度発足から20年が経過。同会は道の駅同士の情報交換とネットワークの構築を目的として設立されました。



今後の連携を約束した設立総会

設立総会では、初代会長に本田市長が、副会長には栃木県茂木町の古口達也(たつや)町長、沖縄県豊見城市の宜保晴毅(はるき)市長がそれぞれ就任することが決

まりました。本田市長は「震災時、道の駅は防災拠点として機能することが確認できた。全国の道の駅と情報交換や課題を共有するなどして、さらなる機能の強化とネットワークの再構築を図りたい」と抱負を述べました。

市民センターで開催されたシンポジウムでは、徳山日出男(ひでお)国土交通省東北地方整備局長と谷口博昭(ひろあき)浦工業大学大学院教授が講演。震災時に防災拠点として機能した道の駅について評価し、「これまでの情報発信や休憩場所としての機能のほかに、防災拠点としての機能や地域振興など新しい役割を担える」と道の駅の可能性を訴えました。



全国から多くの関係者が集結したシンポジウム